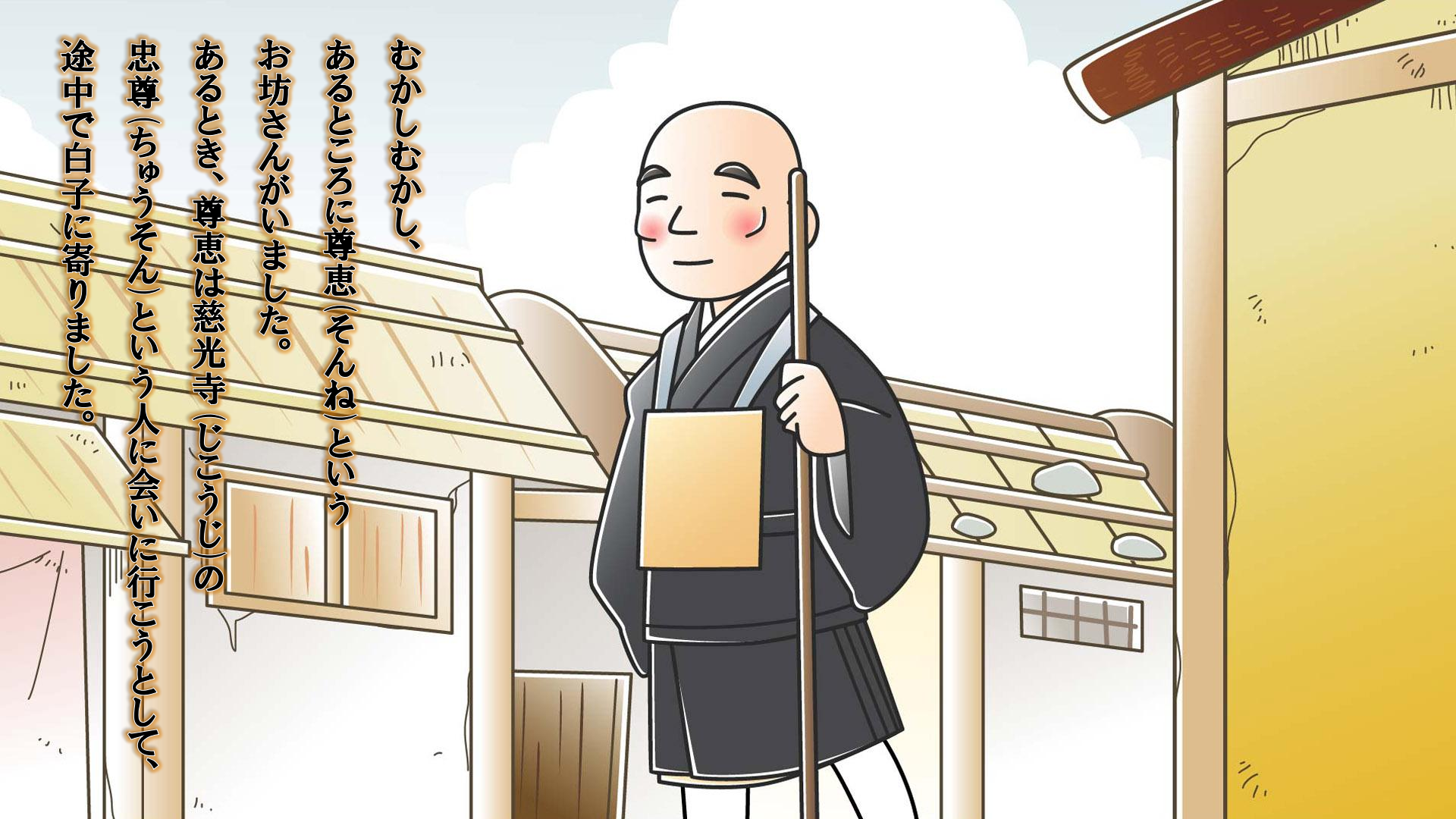


むかしむかし、
あるところに尊恵(そんね)という
お坊さんがいました。
あるとき、尊恵は慈光寺(じこうじ)の
忠尊(ちゅうそん)という人に会いに行こうとして、
途中で白子に寄りました。



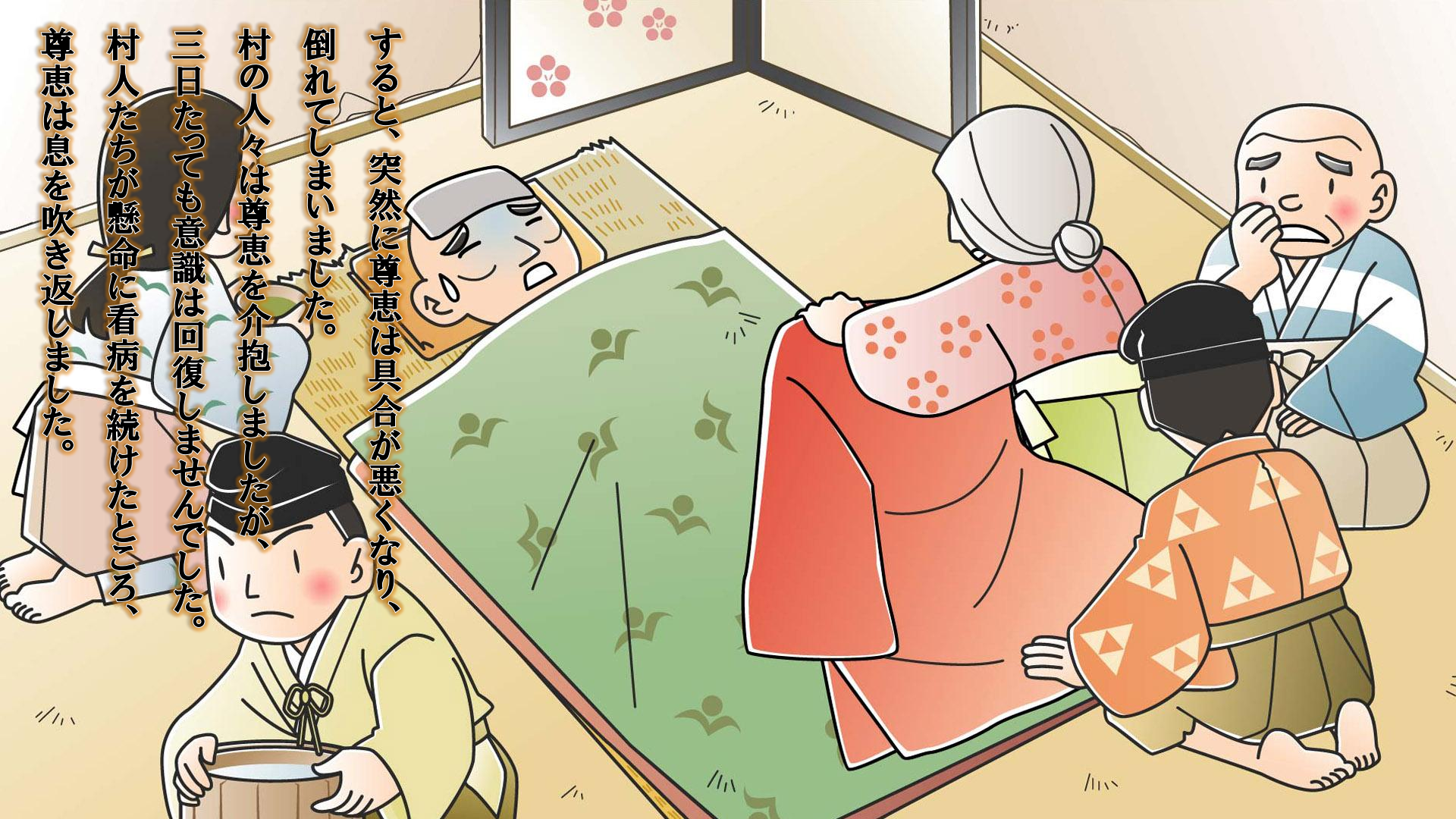
すると、突然に尊恵は具合が悪くなり、
倒れてしまいました。

村の人々は尊恵を介抱しましたが、

三日たっても意識は回復しませんでした。

村人たちが懸命に看病を続けたところ、

尊恵は息を吹き返しました。

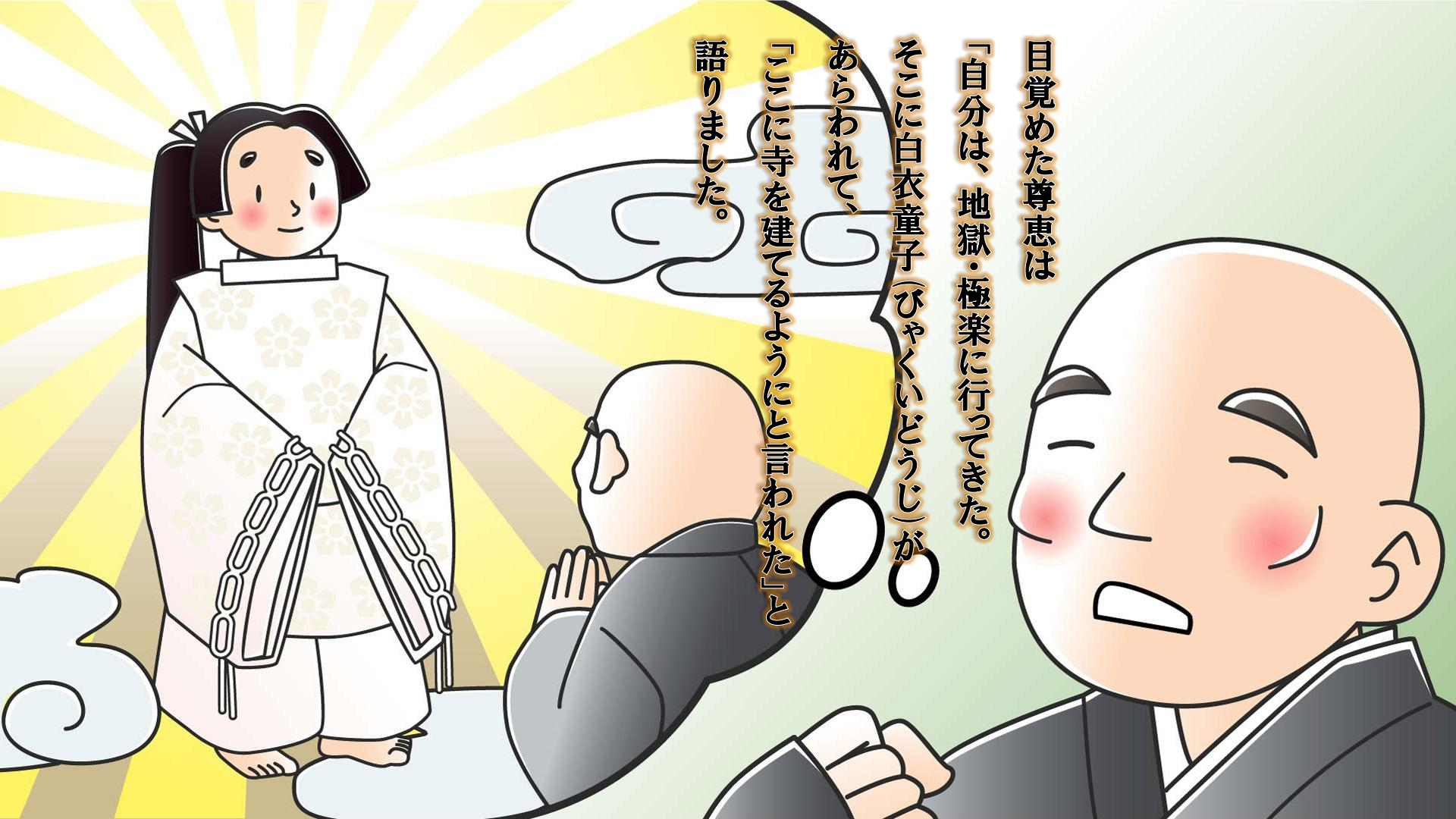


目覚めた尊恵は

「自分は、地獄・極楽に行ってきた。

そこに白衣童子(びやくいどうじ)が
あらわれて、

「ここに寺を建てるようにと言われた」と
語りました。



尊恵の手には、

右手に地藏様が

握られていました。

そこで、その地藏を

「枕がえしの地藏」として本尊にまつり、

ここに寺を建てることにしました。

その寺は地福寺と名づけられました。

